

売れないミカン捨てさせない

山本燦志朗 藤原郁海 善家悠士郎
植村圭一 山内大斉 濱田賢吾
指導者：児玉泰廣

1.研究目的

愛媛の名産品のミカン。しかしミカンには捨てられているミカンがある。これらのミカンをも有効活用して商品化できないかと考えた。

2.実験内容

我々はミカン石鹸を作り、売れないミカンをも有効活用することにした。以下に記すのはそのミカン石鹸の作り方である。

<材料>

水300(cc) 重曹30(g)

ミカンの葉20(g) ミカンの皮適量

①沸騰した湯に重曹を入れ、葉も入れる。

②30分煮る

③歯ブラシで葉をこする

④石鹸水につける

(ミカンの実も入れると香りもつけられる)



←完成予想図

3.実験結果(まとめ)

今回はぶんたんの葉を使った。右の写真1は煮ているところである。予定の4倍の時間煮た。写真2は葉に石鹸水をつけている写真である。予想より難しく、他のみかんの葉も実験する必要があると思った。



写真1



写真2

4.今後の課題

みかんの葉は他の葉よりも分厚いのでみかんの葉を透明にする過程でとても時間がかかることがわかった。そして透明にするのもとても難しいことがわかった。予定では30分間煮ればいい予定だったが2時間半近く煮た。今回の実験で使用したみかんの葉(ぶんたんの葉)はおそらくほかのみかんよりも分厚いと思われるのでこの実験に適したみかんの葉を探す必要があると思った。

20枚実験した結果、1枚しか成功しなかった。その1枚も成功とはいいいがたい。今後作り方も含めて改良をしていく必要がある。